

令和5年度学校評価の項目の達成状況について

【自己評価の基準】 A:よく取り組まれており、成果が出ている。
 B:遅滞なく業務が進められており、問題ない。
 C:取り組まれているが、更なる工夫(改善)が必要
 D:取り組まれていない。

1 教育活動に関すること

項目	令和5年度目標値	実績(2月21日現在)	自己評価	今後の課題	評価結果	評価委員のコメント	
(1)地域農業の中核的担い手となる農業経営者及び農業を支える多様な人材の養成	①入校生の確保に向けた周知活動の充実強化	・オープンキャンパス(2回) ・学校説明会(1回) ・県内在校生出身高校(24校)訪問、高校進路ガイダンスと進路相談会への出席 ・ホームページとSNSの充実(情報発信回数:月2回以上) ・新築牛舎、希望入寮制と6次産業化コースをPR	・オープンキャンパスは、新型コロナ前のように人数制限なしで8/27、営大祭10/28～29に実施、参加者104名(前年134名) ・高校教諭を対象とした学校説明会を8/10に開催。併せて農業高校1,2年生を対象とした説明会を開催 ・学生募集に係る県内高校訪問(7月)、進路ガイダンス参加延べ15校、進路相談会4回 ・校内の出来事・行事をSNSで45回情報発信(前年33回) ・入校案内パンフ、オープンキャンパス、県広報番組等でPR	・県内高校の進路ガイダンス参加やSNSによる情報発信など継続的なPR活動を実施 ・次年度入校生の定員充足率が約7割と今年度から大幅に減少 ・今年度から新たに農業高校1,2年生を対象とした説明会を実施し、周知活動を強化	・進路ガイダンスへの積極的な参加などPR活動の継続 ・全課程の入校生増加	自己評価の判定:B ・積極的PR活動を展開したが、次年度入校生が前年度から大幅に減少 ・就農、農業関連業種への就職者割合が目標を達成 ・授業内容は職員、学生ともに高評価	自己評価の判定に異存はない。 ・新規就農を希望する社会人等にも営大への入校をPRして欲しい。 ・農業高校の志願倍率を考えると、定員7割は集まっている方だと思う。
	②6次産業化や農福連携等に対応できる授業内容の充実強化	・6次産業化コースの授業・実習体制の充実・強化と加工品開発(6品) ・関係機関と連携したプロジェクト学習の実施(各課程1つ以上) ・各専門分野に精通した外部有識者による講義の実施(10回以上) ・スマート農業や農福連携等先進的な農業経営に対応できる授業の充実	・「マーケティング論(応用)」など外部有識者、産業技術センターとの連携による授業実施 ・プロジェクト学習で「グリーンスムージー」など6種の加工品を開発 ・民間企業、試験研究機関と連携したプロジェクト学習を実施(畑作:5課題、果樹:4課題、畜産:1課題) ・マーケティング、経営管理、GAP、りんご接ぎ木・剪定講習など外部有識者の講師招へい21回招へい(前年19回) ・スマート農業機械の実演及び説明(直進田植機、ドローン、ロボットトラクター、ロボモア、気象観測装置) ・おうとう低樹高栽培の学習 ・牛用ウェアラブルデバイス(ファームノート)の導入	・6次産業化などにおいて外部有識者と調整して授業を実施 ・関係機関との連携によりプロジェクト学習が充実 ・6次産業化や農福連携等の授業内容について、及第点と回答した職員が69%(前年52%) ・ICT技術の授業内容について、学生は92%が役に立つ内容と評価(前年93%)、職員は及第点の回答が47%、更なる工夫が必要の回答が25%(新規設問)	・関係機関との連携に向けた情報収集及び内容・予算等に関する早期の打合せ ・グランドデザイン(R5改訂版)に対応した教育計画の見直し及びカリキュラムの一層の充実		・毒劇物取扱者や危険物取扱者乙種第4類など就職後に役立つ資格の取得者を増やして欲しい。 ・次回北海道で行われる全国和牛能力共進会の学生部門に営大も出品してほしい。
	③新規就農者及び農協等農業関連業種従事者の確保	・校内でキャリア講座及び企業説明会を実施し、学生の新規就農者と農業関連業種従事者の割合80%以上を確保	・ビジネスマナー、就活の就農ビジネス講座開催(2回)、ホームセンター・農機メーカー等の企業説明会開催(5社)	・就農、農業関連業種への就職者割合が84%で目標を達成 ・職員の62%が及第点と回答(前年70%)、学生は97%が助言指導を高評価(前年93%)、「そう思う」「やや思う」の合計、以下同じ)	・農業法人及び農業関連企業の会社説明会の積極的な開催 ・親元就農や独立自営就農に向けた学生向けの進路指導		
	④社会人向け研修による新規就農者の確保	・「あおりり農力向上シャトル研修」(シャトルコース、リカレントコース)を開講 ・「野菜1DAYセミナー」開催(20回)	・シャトルコース4名、リカレントコース4名(前年は、両コースで10名) ・営大で実施するセミナーをリモートで受講するサテライト方式も導入し、20回開催 ・刈払、チェーンソー、大特、けん引、溶接、フォークリフト研修への受講を誘導し、のべ25名が受講	・受講者は、前年度並みを確保。 ・職員の69%が及第点(前年54%)	・農業支援センター及び県民局と連携した支援強化		
(2)安全・安心な学校づくり	①緊急事態等に対する危機管理体制の整備	・防災訓練(1回)、夜間防災訓練(1回)及び救急救命講習(1回)の実施 ・新型コロナウイルス等の感染症蔓延防止のため、学生及び職員の毎朝の健康観察実施 ・新型コロナウイルス等の感染症に係る対応マニュアルの改訂	・防災訓練(5/25)、夜間防災訓練(6/27)、救急救命講習(7/13)の実施 ・学生及び職員の風邪症状等の体調不良者の速やかな帰宅措置による校内クラスターの発生防止 ・インフルエンザ罹患患者急増時に休校措置を実施(12月) ・新型コロナウイルスの5類移行に伴う対応マニュアルの見直し(5/8)	・学生、職員、当直員の危機管理意識が醸成 ・休校措置により感染拡大を最小限に抑制 ・新型コロナウイルスの5類移行に伴い対応マニュアルをインフルエンザ等を含めた内容に改訂	・学生、職員、当直員の防災意識の維持 ・感染症拡大時のリモート授業の環境整備	自己評価の判定:B ・農作業事故の発生はなかったが、自動車事故が2件発生 ・感染症の拡大を最小限に抑制	自己評価の判定に異存はない。 ・今後も安全対策と感染症対策を徹底してほしい。
	②農作業事故の未然防止	・実習開始前の農作業安全の確認及び農業機械操作中のヘルメット着用率100%による学生及び職員の農作業における事故発生0件	・実習における安全マニュアルを作成 ・実習前の安全確認の実施 ・全員にヘルメット準備と着用徹底	・農作業中の事故の発生なし ・学生の93%が評価(前年95%) ・職員の69%が及第点(前年91%)	・ヘルメットの着用徹底 ・農作業安全確認の徹底		
	③学生の安全運転の指導徹底	・交通安全教室の実施(2回)やホームルームでの安全運転の呼びかけによる交通事故の未然防止	・交通安全教室の実施(4/25、12/1)、冬季の安全教室では、冬季の安全運転、飲酒運転防止に加え、闇バイト及び薬物に関する講話を実施	・自動車事故2件発生 ・職員の72%が及第点(前年69%)	・安全運転の徹底 ・法令順守の徹底		
(3)職員の学生指導力の向上	①学生指導に係る情報の共有	・職員間で学生指導に係る情報を共有するため、職員朝会(毎日)、課長会議(毎週)、指導職員会議(月1回)を実施	・計画どおり実施、指導職員会議等で学生指導状況の共有	・指導職員会議のほか、課内で学生情報を共有 ・職員の47%が及第点(前年67%)	・学生の指導情報の共有継続	自己評価の判定:B ・職員朝会などにより学生指導情報を共有 ・職員を積極的に研修に派遣	自己評価の判定に異存はない。 ・学生それぞれの力量に合わせた支援が必要なので、職員の更なる資質向上を図ってほしい。
	②学生指導に関する職員の資質・知識向上	・職員の資質と知識を向上させるため、学生指導に係る職場内研修会の実施 ・指導力スキルアップのための研修会への参加(延べ15人以上)	・学生指導に係る留意点を研修(4/4) ・Google work space educationの基本知識及び管理方法を研修(1/29、2/5) ・県や産技センター等が開催の研修受講(13回、延べ16人参加)	・研修会等に目標を上回る人数が参加 ・職員は48%(前年59%)が更なる工夫が必要と回答	・職員の資質向上に向けた研修への派遣		
(4)営農大学校機能強化に向けた取組の加速化	①長寿命化計画の着実な推進	・令和5年度の改修工事の実施(牛舎新築工事、農業機械整備実習舎等の改修工事) ・令和6年度予算の確保	・牛舎新築(11月引渡) ・農業機械整備実習舎、農業機械格納庫改修(2月引渡) ・受変電設備改修は、資材調達困難のため工期延長。来年度への繰越手続き中 ・令和6年度は計画どおりの内容で当初予算要求中(乳牛舎、選果貯蔵庫、ガラス温室B棟の改修工事、体育館改修の実施設計)	・職員の55%が及第点(前年50%)	・予算の適正執行 ・施設の活用と維持管理	自己評価の判定:B ・資材の調達困難により一部計画の遅れはあるものの、概ね計画どおり進捗	自己評価の判定に異存はない。 ・その他の意見なし。

2 地域との連携に関すること

項目	令和5年度目標値	実績(2月21日現在)	自己評価	今後の課題	評価結果	評価委員のコメント
(1) 地元のイベント・スポーツ大会等への参加	・地元イベント等への参加、管内朝野球大会への参加	・七戸町ナイターバドミントン大会参加	・職員の24%が及第点(前年13%)	・イベント等へ積極的に参加するよう学生の意識醸成	自己評価の判定:B	・学生が地元イベント等への参加がコロナ前と比較して減少 ・農作業体験の受入人数が大幅に増 ・七戸町と連携した取り組みにより学生が様々なスキルを習得 ・七戸町内のイベント等への協力を感謝する。道の駅しちのへ産直の会も営大生から刺激を受けている。
(2) 農業関連高校との連携	・令和6年度入校生の円滑な学生指導のため、高校訪問し情報収集 ・農業関係高校への授業・研修への参加 ・農業高校OB職員による授業の実施	・書面での情報収集 ・チェーンソー作業特別教育講習を実施(8/3～4、三本木農業恵拓高校) ・農業概論(1名)	・共通する研修を合同で実施 ・職員の62%が及第点(前年26%)	・交流拡大による連携強化及び職員間の情報共有 ・農業高校職員OBへの外部講師協力依頼		
(3) 農作業体験の受入れ	・児童・小学生・中学生、教員等対象に、食や農業への関心・理解を深めることを目的に、本校施設を活用した見学及び農作業体験学習の場を提供	・6団体(7日)、256人を受入(前年4団体、82人)	・前年を大幅に上回る人数を受入 ・職員の73%が及第点(前年64%)	・学生を主体とした農作業体験への対応		
(4) 産直施設「七彩館」との連携	・直売所「ダイちゃんの店」の開催、プロジェクト研究に係る消費者アンケート調査等の実施	・直売所「ダイちゃんの店」を開催(5回) ・プロジェクト研究で消費者アンケート等を実施(2回) ・6次産業化コースは、プロジェクト学習で開発した加工品を常設販売(10～12月)	・販売やアンケート調査等のスキルを習得 ・常設販売ができる商品開発による高度な加工技術の習得	・地域イベントの連携強化		

3 アクションプログラム進行管理に関すること

項目	令和5年度目標値	実績(2月21日現在)	自己評価	今後の課題	評価結果	評価委員のコメント
畜産課程の専攻コースの再編等に伴う教育環境の整備	①肉牛、酪農、養豚の3コースを見直し、肉牛を中心に酪農も学ぶ畜産コースへ改編	・適正な頭数の維持継続 ・乳牛舎のR6改修工事に向けた発注準備	・適正な飼養頭数を維持(肉牛9頭、乳牛9頭、肥育・育成牛12頭、計30頭) ・11月から新牛舎の運用開始 ・乳牛舎改修工事を令和6年度当初予算で要求中	・試験研究機関や関係団体と調整し、外部講師を確保 ・繁殖台帳ウェブ管理システム利用により、妊娠頭数が前年度に比べて増加	自己評価の判定:A ・新牛舎運用開始と適正な飼養管理体制の構築 ・6次産業化コースの外部と連携したプロジェクト学習の定着 ・社会人向け研修について受講者が高評価 ・安全管理の訓練実施と意識向上	・新規就農者及び既就農者を対象とした研修について、関係機関と連携を図ってほしい。 ・飼養頭数30頭は、学生と職員による飼養が大変と思う。畜産課程の学生を増やすためPR方法を工夫してほしい。
6次産業化コースの新設・科目の充実	①段階に応じた学習内容の検討や講師の選定の充実	・プロジェクト研究等に係る関係機関・団体・企業との連携	・加工、流通、食品試験研究分野のプロジェクト学習6名のうち4名が福祉施設及び民間企業と連携 ・マーケティング論(応用)、食品加工・貯蔵学等外部講師の選定・調整 ・食品衛生責任者資格を取得(6名)	・民間企業や関係団体と連携したプロジェクト学習の定着	・外部講師の確保・調整 ・6次産業化コース専攻者の定員の目安設定	
新規就農者及び既就農者を対象とした研修の充実	①就農希望者に対する農家研修を主体とした実践的な研修制度の導入、あおもり農力向上シャトル研修を実施(H30年度～) ②新規就農者及び既就農者に対する研修の実施	・シャトル研修シャトルコース受講者の新規就農 ・リカレントコースの「野菜1DAYセミナー」を5～2月まで20回開催 ・農作業安全研修を9回(7～11月)、農業機械整備研修を1回(11月)開催	・シャトルコースの受講者4名は就農及び雇用就農予定。うち1名は8月まで研修を延長 ・野菜野菜1DAYセミナーを20回開催し、参加者数延べ129名(前年157名)。遠方の受講生に対応するためリモートによるサテライト方式も実施 ・農作業安全研修を9回(7～11月)し65名が受講。農業機械整備研修を1回(11月1日)開催し18名が受講。	・野菜1DAYセミナーの受講者アンケートでは、就農(営農)に役立つと、高い満足度 ・農作業安全研修では64名が大型特殊自動車免許及びけん引免許を取得 ・農業機械整備研修では、農業機械の性能や安全性を確保するための知識・技能を習得	・農業支援センター及び県民局との連携強化のため、役割分担の検討 ・受講生増加に対応するため、自動車学校及び農業機械メーカーと連携して講師の確保	
希望入寮制の充実	①アンケート調査や全国の農大の動向を踏まえ、希望入寮制に変更、希望者は通学可(H30年度～)	・学生募集で寮定員及び入寮基準の周知	・入寮70名(男子寮56名、女子寮14名) ・通学生15名 ・1学年保護者懇談会及び入寮説明会において、R6実施の光熱水費の価格改定の周知	・入寮希望者に対して、高校進路ガイダンス等学校説明において寮定員及び入寮基準の周知 ・在校生に対して価格改定の周知	・入寮基準の継続的な周知	
安全管理の充実	①指導職員による定期的な生活指導と寮の自治活動支援	・防災訓練(夜間を含む)実施(2回)、週1回の指導職員による点呼、自治会活動・体制整備の支援(月2回)	・防災訓練の実施(5/25、6/27)し、避難マニュアルを改定 ・週1回の指導職員による点呼を実施(週1回) ・特別清掃、委員会活動の自治会運営を支援(月2回)	・計画どおり実施 ・継続した指導で自治会の自主性を養成	・安全管理、自治会活動の支援を継続	
居住性の改善	改修済	—	・男子寮改修はH30年度、生活棟改修はR3年度実施済み	—	—	
施設長寿命化計画の後期計画の策定	策定済	—	・令和6年度は計画どおりの内容で当初予算要求中(乳牛舎、選果貯蔵庫、ガラス温室B棟の改修工事、体育館改修の実施設計)	—	—	